

**大分市自治基本条例検討委員会
第3回 市民参加・まちづくり部会 議事録**

◆ 日 時 平成21年12月15日(火) 9:30～11:10

◆ 場 所 大分市役所議会棟 3階 第3委員会室

◆ 出席者

【委 員】

日小田 良二、松尾 直美、永岡 昭代、竹本 和彦、葛西 満里子、徳丸 修、
小出 祐二 の各委員（計7名）

【事務局】

企画課主幹 渡邊 信司、同主幹 川野 洋史、同専門員 姫野 正浩、
同主査 甲斐 章弘、同主査 永野 謙吾、同主査 足立 和之、同主任 阿部 美剛
（計7名）

【プロジェクトチーム】

（企画課主幹 渡邊 信司）市民協働推進課主査 安東 孝浩、
広聴広報課主査 永田 浩貴、選挙管理委員会事務局主査 下村 光典
（副統括者除く：計3名）

【傍聴者】

なし

◆ 次 第

1. 開会
2. 議事
 - (1) 項目の検討・まとめ
 - (2) その他

<第3回 市民参加・まちづくり部会>

事務局	皆様、おはようございます。 それでは、定刻となりましたのでただ今より、大分市自治基本条例検討委員会 第3回市民参加・まちづくり部会を開催いたします。 それでは、開会に先立ちまして、現在までの他の部会の開催状況につきまして、 若干ではございますがその内容を事務局の方からご報告をさせていただきます。 皆様のお手元に（報告）と記載した資料がございますので、ご説明いたしま
-----	--

す。

まず、資料の1枚目でございますが、資料の見方としましては右肩に部会名とその部会の部会長・副部会長名を記載しております。項目につきましては、左から、「開催日」、「検討項目」、この「検討項目」につきましては、委員から出た意見を条例の項目ごとに仕分けしています。次に「検討内容」、こちらの「検討内容」につきましては、委員からいただいたご意見や課題内容を記載しております。次に「今後の取組」、こちらの「今後の取組」につきましては、出た意見に対して、明確に今後どのようにしていくかとの方向性が出されたものを記載しております。次に「確定事項」、こちらの「確定事項」につきましては、その事項に対して、部会として明確に意思決定されたものを記載しております。最後に「備考」、「備考」につきましては、この部会の検討方法や進ちょく状況を文章で表現いたしております。

はじめに、「理念部会」でございます。「理念部会」では、現在までに部会を1回開催しており、自治基本条例のあり方についてフリートーキングを行い、全体としましては、条例を通して条文はより短く簡潔で中学生が読んでも理解できる内容が望ましいのではないかという意見統一がなされております。主な意見といたしましては、まず、「前文」については、委員がそれぞれ文案を考えて、持ち寄って議論することとしております。また、「市民の定義」につきましては、限りなく広い範囲で捉えるということで確定をしたところでございます。また、総論的な意見としましては、条例を見て大分市に住みたくなるような条例をめざし、どこからみても市民が主体であるということが分かるような内容にするべき、という意見が出ております。今後は、条例に必要な要素や定型的な条項を洗い出し、それ以外の項目について重点的に検討を行うことや、他部会で出た考え方等を参考にしながら、理念等を練り上げるという方向性になっております。また、他の部会に影響を及ぼすであろう項目や文章の表現スタイルなどにつきましては、早めに決定をして各部会との調整を図る方向も意見として出されているところでございます。

次に、3ページ目の「市民部会」でございます。「市民部会」では、2回の部会を開催する中で、市民に関することについてフリートーキングを行い、「市民の権利・責務」を議論するに当たっては、「定義」をきちんと意識しておく必要があるということで、冒頭に「市民の定義」といたしまして、「市内に住所を有する人」、「市内で働く人」、「市内で学ぶ人」と大きく定義をして、団体や事業者も働く人に含むとして広い範囲で「市民」を捉え、本題の「権利・責務」の議論へと入ったところでございます。主な意見といたしましては、「個人情報保護」についても、市民の権利のひとつと考えますが、条例の「市民の権利」に謳うと、そのことが逆に足枷になる危険性もあるため、慎重な取り扱いが必要であることや、「市民の権利」の大前提は「安心・安全・快適に暮らす権利」ということが必要であるということでございます。「市民の責務」の項目では、市のサービスを受けるには「応分の負担を負う」というような「責務」も必要になる。また、「理念部会」でもご意見としてあがっていましたが、小中学生が見て理解出来る条例にしたい、などの意見も出されたところでございます。今後は、これらの意見をもとに成文化していくことといたしております。

次に、4 ページ目の「執行機関・議会部会」でございます。「執行機関・議会部会」では、2 回の部会を開催しており、「執行機関・議会」の役割等を議論するに当たって、本市における事務事業等の現状や議会基本条例との関係性等につきまして、広い範囲でのフリートーキングを行っております。主な意見といたしましては、「民意が反映されるルール作り」が必要であることや「議会基本条例」が先行している本市においては、自治基本条例との関係性が大きな課題となる、などの意見が出されておるところでございます。今後は、市民の意見を行政や議会に取り入れるシステムについてどのようなものがあるのか、または、どのようなものが必要であるかという検証を行うなど、慎重な議論を進めていくことといたしております。

次に、5 ページ目の「市政運営部会」でございます。本部会は、当初「(仮称)行政事務部会」とさせていただいておりましたが、他都市の条例におきまして「市政運営」という言葉が使用されておりましたことから、部会名を変更いたしましたところでございます。現在 1 回部会を開催しており、まずは事務局から提示させていただいた資料をもとに、項目ごとに本部会で検討する項目か、他の部会で検討すべきものかなどを議論しているところでございます。主な意見といたしましては、「条例の制定」のうち、条例制定等の手続きに関しましては、他都市の条例では、その手続き上は市民の参加を図り意見を求める内容となっていることから、「市民参加・まちづくり部会」との連携が必要ではないかということ、また、「危機管理体制の確立」については、必要があると思うが他都市においてあまり謳っていないという現状であるのが、どうしても気になるという意見、また、「環境・景観」については、大事なことであるので章を別立てにして謳うか、少なくとも前文や理念で触れられるべきであるなどの意見でございます。今後は、項目を確定した後に具体的な検討に入る予定というところでございます。

次に、最後に 7 ページ目の本部会でございます「市民参加・まちづくり部会」の内容でございます。本部会も名称の変更をいたしており、当初「(仮称)市民参加・協働部会」であったのを、「協働」という言葉が分かりにくく誤解されやすい言葉であるとのご意見から「市民参加・まちづくり部会」と変更させていただいたところでございます。現在までに 2 回の部会を開催済みであり、事務局から提示させていただいた資料の項目に沿って、「必要なもの」、「不必要なもの」や項目ごとの考え方を整理しておるところでございます。主な意見といたしましては、「住民投票」についてどのように規定するのかという議論が必要であることや、「協働」という言葉の使用について部会内でも意見が分かれているところであり、今後さらに議論を深めていく必要があること、「都市内分権」については、大分市として今後どのように地域に財源や権限をおろすということになるのかなど、十分な議論が必要であるなどの意見が出されておるところでございます。今後は、十分な検討を重ね、考え方を整理した後に事務局に条文(案)を作成させ、委員の考え方が反映されているかどうかの検討を進めることといたしております。

以上、他の部会の検討状況並びに本部会の現在までのまとめとしてご説明をさせていただきました。詳細につきましては、ご一読いただきまして、他部会の議論と関連性があるものもあろうかと思っておりますので、今後の検討のご

	<p>参考にしていただければと思っております。以上でございます。</p> <p>それでは、早速ではございますが、本日の議事の進行につきましては、（部会長不在につき）副部会長さん、よろしくお願いいたします。</p>
副部会長	<p>おはようございます。</p> <p>今日はということで部会長が居ませんので、私の方で代わりに進めさせていただきます。</p> <p>前回途中で退席しまして、その後の状況が分かりませんでした。今、詳しく説明を受けまして、今日は「協働の推進」、「都市内分権・地域自治」について議論を深めるということでありまして、部会長が居ませんので、できるだけフリースピーキングという形をしていただいて、議論を深めた方が良く思っておりますので、改めてまた部会長が出席した時に方向性なりを見出していくという形で進めさせていただければと思っております。</p>
各委員	<p>はい。</p>
副部会長	<p>今、事務局の方から資料の説明がありましたが、これだけまとめていただいて大変だったのではないかなと思っておりますが、一応、部会でですね、回数とかまちまちにやはりなってくると思いますので、とりわけ当部会の「市民参加・まちづくり」ということになりますと、非常に議論を重ねていかなければならないと思っておりますので、そういう立場で是非とも議論をしていただければと思っております。</p> <p>では早速、前回の続きという形で「協働の推進」、「都市内分権・地域自治」についてのフリースピーキングとさせていただきたいと思っておりますので、どなたからでも結構ですから、よろしくお願いします。</p> <p>どうでしょうか、一応、事務局の方でまとめていただいた各部会の報告の中身を見ていただくと分かりますように、その部会だけにとどまらず他の部会に関係がある部分だとか、かなり交通整理的なものがされているようでありますし、当部会でも、一応事務局案の方から整理されている項目というのがあるんですが、とりあえず議論は今から深めていかないといけないと思いますが、その前に、項目の整理といいますか、一応交通整理を行い、それから中身について議論をし、他部会との関係があれば他部会との調整をしていくとかですね、そういうふうにしていければと思っておりますが、事務局に確認をしておきたいんですけども、他部会と協議をする場合はどうするのかということと、交通整理ができた段階で、全体会が開かれるのかどうなのかということと、一番これは私が個人的に最後の全体会の時に少し話しをしたんですけど、総合型の条例を目指していくのかどうなのかということがですね、方向がはっきりしないとなかなか踏み込んだ議論ができないのではということがあるものですから、その辺はどうでしょうか。</p>
事務局	<p>はい、委員長さんとはまだ話しを進めておりませんが、事務局の考えとしましては、今、部会で個々の具体的な検討をしていただいており、その中で言われたように、他部会との調整が必要な部分があるのではと思っておりますことか</p>

	<p>ら、検討が途中の場合であっても2月に一度、全体会議を開きたいと思っております。</p> <p>ただ、委員長さんとも相談をしながら決めていくこととなりますので、まだ確定した話ではございませんが、現状の段階でこういった擦り合わせが必要だということを全体で議論をしていただいて、課題等があると思いますので、それぞれ発表していただく中で課題の擦り合わせを行い、仮にその前段で部会長会議みたいなものを行うとよりスムーズにいくのではないかと考えておりますが、いずれにしても、全体会議は2月に入ってからと思っております。</p>
副部会長	<p>分かりました、できるだけ一定期間おいて、擦り合わせはできたらしていただきたいと思えます。</p>
事務局	<p>はい、今回、このような資料をお配りしましたのは、ある意味では擦り合わせの第1弾になるのではと考えております。</p> <p>ご覧のとおり、この「市民参加・まちづくり部会」に関連するご意見が出ておりますので、その辺も汲んでいただき、今日のフリートーキングの話の参考にさせていただければと思えます。</p>
副部会長	<p>ということでありますので、どうでしょうか、こうなかなか入りにくいと思えますので、資料の3ページ、市民部会の11月26日の「検討項目」に「市民の責務」というのがありますが、ここに『「協働」については、権利というよりも責務のところで「協働のまちづくりを担う責務」としたい』といった部会の中での議論がございますが、事務局の方でのまとめをこの文言どおり直訳していきますと、「協働」が結局は「責務」になってしまうような形になっているところもありまして、かなり他部会との議論が必要になってくる部分があると思っておりますので、そういう意味では第1弾として、すり合わせが非常にし易くなったのではないかと考えております。</p> <p>どうでしょうか、項目をひとつひとつ議論した方が良いと思えますので、「協働の推進」、私が拘りましたので悪いのですが、よろしくお願いします。</p>
事務局	<p>副部会長、よろしいでしょうか。</p> <p>誤解の無いように補足をさせていただきますと、本日お配りした資料の「検討内容」につきましては、あくまでもご意見でありまして、決定されたことではございませんが、「今後の取組」と「確定事項」につきましては、その部会での方向性や確定した内容となっております。</p> <p>したがって、「検討内容」はフリーにお話された内容を、意見として拾い上げたものとして捉えていただきたいと思います。</p>
副部会長	<p>はい、入口だろうというように思います。</p> <p>それでは先ほど言いましたように、「協働の推進」につきまして、少し議論を深めていただければと思えます。</p> <p>今日はですね、部会長が居られれば許可をいただいて、参考資料を作ってきたものですから、皆さんにお配りをして、それを少し見ていただければと思えます</p>

各委員	<p>ので、よろしいですか、少し見ていただいて。</p>
副部会長	<p>はい。</p> <p>(副部会長持参資料配布)</p> <p>佐賀市の例と多治見市の例がありましたものですから、非常に分かりやすいと思い、参考までに用意をしましたので、皆さんご覧ください。</p> <p>少し読みますので、佐賀市の例ですが、『「参加」と「協働」の同じところと、違うところ』というのが提示されておりまして、『「参加」と「協働」には共通した目的がある。それは、「地域や社会の課題・問題を解決する」こと。つまり、「参加」や「協働」は、あくまでもその目的を実現するために行われる取り組み手段の一つであり、決して「参加」や「協働」することそのものが目的なのではない。「参加」と「協働」の違いは、「参加」は個人が主体的に組織に関わることで、「協働」は組織と組織の関係が基本になっている。市民が「参加」により社会の課題解決に取り組むことは民主主義の基本であり、「参加」の状況が単発的か継続的に関わらず、そのあり方は誰にでも可能なように権利として保障されなければならない。しかし、「協働」は、取り組む地域の課題が大きければ大きいほど、その解決を目指す活動を続けていくこと、つまり活動の継続性が求められることも多いため、個人による取り組みよりも、組織の活動であることが基本となる。』とあります。</p> <p>それから『「参加」と「協働」の考え方』ということで、『「参加」と「協働」の関係については、「協働」を「参加」の発展形態として、両者には質的違いがある。すなわち、「参加」よりも「協働」のほうが取り組みの質が高いと考えられる。つまり、活動の主体である個人と組織の関係性の違いや、「参加」を行政参加として狭義に捉えがちであることを背景として、「参加」(行政参加)はあくまでも行政が用意した機会と場に市民が関わるのでその主導権は行政にあるが、「協働」は組織としての対等性のもとに協力・連携の関係をとるため、「参加」よりも「協働」が質的にも進んだ関係性であるという見方のほうが正しいと考えられる。「参加」は決して行政参加に限定して考えるものではなく、広く取り組まれるものであり、個人の自発的で責任を伴った「参加」の取り組みがあってはじめて、組織同士の「協働」が成り立つものである。「協働」の取り組みにおいては、「参加」と「協働」の関係はきわめて連続的な関係を持つものであり、決して質的に優劣がつけられるものではない。すなわち両論の関係にあると考える』というまとめ方がされておりました。</p> <p>それから多治見市の場合ですが、『当初、「協働」の軸を用いていたが、「協働」は、目的と行動を共にするニュアンスがあり、「連携協力」は、連携と協調を意味し、行動を共にしつつも目的を共にするとは限らないニュアンスがある。今後、行政と市民との関わり方が変化していく可能性がある中で、多様な主体による自由な活動を大切にしまちづくりをすすめていく視点から、あえて「協働」とせず「連携協力」とした』、これらはふたつの例であり、これが何かの参考になるのではと思いますので、是非、皆さんの方でこういう立場から議論をしていただければ結構だと思います。</p> <p>あくまでも方向性を出すものではありませんので、今日はフリートーキングで</p>

委員	<p>できたらお願いしたいと思います。 委員さん、いかがでしょうか。</p> <p>はい、「協働」という意味は確かにこちらにも書いてあるとおり、行政の方から何か呼びかけて、その後に住民が付いていくというようなニュアンスが、私なんかからしたら強いんですけども、本来はやはり住民がこういうのをしたい、では行政はこういうお手伝いしましょう、というお互いの相互関係というのが必要だと思います。</p> <p>言葉のニュアンスとしましては、「協働」という意味は色々付け焼刃の勉強できちんとした定義付けというのは凄く難しいんですけど、本来は主従関係とか上下関係とかではなく、両方が動きながら、市民が良いまちづくりをしようという気持ちがあることと、行政の方がそのことを手助けするという、逆もそうなんだろうけど、行政の方が旗を振り、市民が付いていくのもそうなんだろうけど、お互い皆が住んでいてゴミをきれいにしようという運動ひとつとっても、皆でやるからこれだけ結果が残るんだと、というのがわかるようなまちづくりにするのが「協働」の本来の目的ではないかなと私は感じております。</p> <p>「協働」という言葉自体を前面に出した時には、「はて、なんだろう」と皆思うかもしれませんので、この辺をもう少し皆が分かり易い意見なり、ニュアンスなりにしていけたら良いのではないかと感じております。</p>
副部会長	<p>はい、ありがとうございました。</p>
委員	<p>私はNPOをしていまして、「協働」という言葉は、本当に始めたころからもう10年になりますけれども、ずっと使っている言葉なんです。</p> <p>実際に活動をしてみて、今、こちらの資料を拝見しますと、やはり「協働」といっても、本来ならば行政とか団体というのは、平等といいますか公平といいますか、1対1でなくてはならないと思っておりますけれども、この対等というところには今はまだ程遠いような感じで、例えば事業を市とか県とかと行う場合でも、どうしても団体よりも行政の方がこの辺で、団体の方がこの辺でというようなことを実際凄く感じるものが多いものですから、この「協働」という言葉をこの条例の中で使うのは、とても何かまだ今の状況の中では、将来のことを考えると別ですけど、今の状況を見ますとなかなかこの言葉ではない方が私は良いような気がします。</p> <p>「協働」という言葉以外に、例えば多治見市の「連携協力」とか、こういった言葉の方が何か市民の方たちも、上下関係のないような形で捉えてもらえるような感じがしますので、どうしても「協働」という言葉は、行政に傾いているようになりがちなのがしまして、今のところはそう思っています。</p>
副部会長	<p>はい、ありがとうございました。</p>
委員	<p>私も今まで一般的に耳に入っていた、何かすうっとした「協働」というものが、行政と「協働」ということで張り切っていたような感じがしていましたけど、この資料を見ると「参加」というのは一般市民が中心となった時に、「参加」の方</p>

	<p>が動き易いような気がしました、今までの感性としましては。</p> <p>でも、この自治基本条例を作るのに、どこに焦点を当てていくかというと、地域住民の方に持っていくのならば、内容としましては市民が行うことに対して、行政がどういうことを手伝えるのか、市民のできないことを行政がするのか、というその「協働」の歯車の噛み合いみたいなもので、言葉に拘ってはとても悪いんですけども、「協働」という既にイメージができあがっていますので、内容的なものをもう一度考えて、表現の言葉を考え直した方が良いのではと思いました、することは同じかもしれませんが...という考え方です。</p>
副部会長	<p>はい、ありがとうございました。</p>
委員	<p>どうも僕はイメージといいますか、昔ですね、まだ下水が発達していない時に生活水は水路に流していましたけど、年に何回か水路に泥が詰まったら皆で流れを良くするために、要は皆で一緒に力を合わせて、それは住みやすいまちを作るために、僕は子ども時代でしたから良く分からずにしていた記憶がありますが、それは多分、行政のひとつの仕事を地域が受け持っていたとされていて、このようなことがやはり「協働」だと思っておりますので、「参加」というと、地域の運動会を何とか皆の手で成功させましょう、だからどうぞ皆さん奮ってご参加いただいて明るいまちを作りましょう、人を知ることは良いことですからどうぞ参加しましょう、という形での捉え方といいますか、そういうことの部分で自分なりにイメージを整理した時に、今ここで言うこれからの大分市の将来をどう持っていくのが良いのかと考えた時に、市民という立場で考えますとどちらかといいますとやはり住みよいまちというところ、本質的なものを目指すとするならば前者のような形をもう一度取り戻さないといけないのではと感じており、イメージした整理の仕方といいますか、もし間違ったりしていたら考え方を改めていかないといけませんが、そういう姿勢で僕は望んでいるつもりです。</p>
副部会長	<p>はい、ありがとうございました。</p>
委員	<p>あまり行政とどうこうという経験はありませんが、PTA活動の中で言わせてもらえれば、子どもたちの運動場とか部活のこととかの時、学校で整理できないものは教育委員会、教育委員会の方でどうしても予算が付かないのであれば、PTAとして予算取りで何とか子どもたちの生活環境を整えることはできないか、というような学校を通じての連携活動をしていることが、私たちの中での「協働」ではないかと思っています。</p> <p>私たちの場合、行政の方から一方的にこうだよというのではなく、それが果たして本当に子どものために良いのか、現状と即しているのか、ということであればやはり学校内で協議したりとかして、どうやって自分たちPTAが参加していくのかということを取捨選択していますので、「協働」というのが私たちの中ではあまり行政からの上から目線での物事としては捉えてない部分がありまして、ある意味こう対等に、ただし、決定権はどうしても教育委員会の部分になりますので、こちらの言い分が100%通るわけではありませんが、そこでどう譲歩していくのかという中で行っていますので、完全なる行政主導というイメージは持</p>

<p>副部会長</p> <p>委員</p>	<p>っていませんけど、ただ、まちづくり、これからの大分市をどうしていくか、子どもたちの発達も含めて考えた時には、「協働」という言葉にそのような誤解を含む部分があるのであれば、多治見市の「連携協力」という言葉でも良いのではないかと感じました。</p> <p>やはりどこかで行政であったりとか、団体であったりとか、連携を取らないといけませんし、その中で協力や参加をしていく、というのが市民の参加意識であったりとか、団体のその協働意識という形になるのではないかと思いますので、「協働の推進」のところを「連携協力の推進」に変えたとしても、弊害はないのではないかと思います。</p> <p>はい、ありがとうございました。</p> <p>市政としましては、「大分市市民協働基本指針」というものを平成１８年１０月に策定しておりまして、今のご議論を踏まえますと、基本的にはこの概念だとか、どういうことをしましょう、という呼びかけといいますか、市民の皆さんにお考えいただく、という内容のものはこの中に全部詰まっているつもりなんです、これに基づいて具体的にＮＰＯの方とか自治会が取り組んでいただいた事例をこのようにしてまとめておりまして、こんな事例があります、こんな取り組みを各地域でしていただいております、というのはございますし、毎年一回発表会もしていただいておりますので、それによってこういう取り組みがありますよという活動事例をご紹介します。</p> <p>それはそれとして、今のご議論の中で私としましては、「参加」と「協働」という言葉に拘るつもりはなく、拘ったとしても何か結果が変わるということではないでしょうし、この自治基本条例の中で市民の方にどういった受け取り方をしていただけるかという意味では、「参加」であっても、「協働」であっても、「連携協力」であっても、そんなに市民の方にとりましても違和感はないと思いますし、行政的な思惑もその中には入っていないと私は思います。</p> <p>ただし、私は「協働」を推進している立場から言わせていただければ、「協働」で十分だという考えを持っておりまして、なぜ「協働」という言葉を使っているかといいますと、私どもの位置づけとしては市民と行政が相互信頼、これが先ほどおっしゃいましたような形で相互信頼をベースとして、目的を共有して連携協力しながら公共的な問題の解決にあたっていこう、こういう概念を「協働」として私どもは呼びかけております。</p> <p>ですから、私の受ける言葉の印象としましては、「市民参加」の方が行政的な意図が感じられます、市民の参加を呼びかけるという意味では、むしろ「協働」という中には市民の皆さんに自主性を持っていただいて、自己決定と自己責任において、これからは、主体は市民ですよという中で主体になっていただこうと、従来の行政主導ではなくて、市民と行政が共に行動することによって課題を解決していきましょう、こういう呼びかけが私どもの考える「協働」という概念でございますので、そういう意味ではあまり「参加」でも「協働」でも私としては、あまり違和感はありませんが、推進していく立場から申しますと、是非「協働」としていただきたいと思っております。</p>
-----------------------	--

副部会長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>一通り意見がでましたが、皆さんのご意見の中でそれぞれ私はこう思うとか、それに対してまた何かご意見があればお願いしたいと思います。</p>
委員	<p>「参加」と「協働」なんですけど、「協働」というのはやはりひとつの団体、地域なら自治区の団体と行政の信頼関係や目的があって一緒にするみたいな気がしてまして、「参加」といいますと、その住民ひとりひとりがそれに参加する、ひとりの責任が目的達成までにこうこうありますというのではなく、参加することに意義があるというような感じの、自治区でその地域で何かするという、参加をしてひとりでも多くの人が集まって目的を達成しましょう、その目的の達成のためには、行政と協働でなければできないから、行政と今度は個人ではなくて自治区との協働のような、私の今の段階のイメージがそうになっていますので、目的達成のためにも協働の精神がないとなかなか参加だけでは結論がでないような状態に、万一の場合になるんじゃないかと思っています。</p>
委員	<p>分からないことがひとつありまして、「責任」ということなんです。</p> <p>要は、何でも良いんですけど、物をなんでも作るとか、やり遂げた時の結果責任というのは、今、個人がそれぞれ責任を負うという話も分かりますが、やるからには最後、誰かが責任を持つとかいう覚悟がないと、物事の達成ができないといいますが、成功もあれば失敗もありますという時の、僕は責任というのは本当にやり遂げるという時に、誰が一体、そこでそういう覚悟を持つといいますが、言葉で言えば「責任」ということになると思います。</p> <p>僕は、やはり組織で生まれ育って、組織の中に入っていると、最終的には責任をとりますのでやりましょう、ということにならないとなかなかゴーがかからない、それが個人の責任の話になりますと、まとまらずして烏合の集団で何か時間は経ったけど得るものは凄く違った偏った人の満足だけで終わるといいますが、そういうこともあるのではないかと思います。</p> <p>その時の「責任」と、「参加」、「協働」、それぞれの関係というのは、やはり少し重要ではないかと思っていてまして、やはり最後は行政全体のひとつのあり方だから、何かの時には執行責任者の市長の責任であり、例えばそれを承認した議会の責任であると、そこがあるからある意味で委ねているところもあると思いますし、また、議員はそれを背負うといいますが、そのことは代替わりしようが、その形態の中では背負っていかないといけないものですから、僕らも単に一意見だけで物事を考えて図れないというところで、色々なところからの情報を得ながら進めていくというのが本市の今の姿なので、もう少し難しく捉える前に、簡単な言葉を使いながらするのは良いんですけど、そういう部分も踏まえたうえで全体の「協働」という形にしていくことも、どこかでは議論をしておかなければならないのではという想いがありまして、少し言わせてもらいました。</p>
副部会長	<p>はい、ありがとうございました。</p>
委員	<p>よろしいですか。</p>

副部会長	はい、どうぞ。
委員	<p>今の「責任」ということですが、先ほど私も「責任」という言葉を使いましたが、基本的には個人の責任を問うということはないと思っていました、そういう条例になるはずないですし、この中で言う「責任」とは、これから大分市が責任を持ちましょう、国、県に頼らなくて大分市が自己決定で何か市民のためにこういうことがやりたい、じゃあそれをやりましょう、その代わり責任は大分市が取ります、とそういう意味での「責任」だと思います。</p> <p>ですから、他の部会で「責任」という言葉は権利というよりも「責務」という形で「協働」を理解しているということでありましたが、「協働」は「責務」では私はないと思っていました、「協働」というのは呼びかけ、要するに一緒に行動しましょうという概念であって、それが「責務」につながるということではないと思います。</p> <p>現に今、大分市で協働のまちづくりがどこまで進んでいるかと言いましたら、そんなに進んでいる訳ではなく、市長が一生懸命言っておりますが、地域によっては温度差があったり、若い人が参加していなかったり、そういう状況は常にあるわけですから、私が考えている「責任」というのは、やはり地域で何かこういうことにお金を使ってこういうことで皆さん分担して一緒に協力してやりましょう、その時の「責任」は決定をした地域が持つと、そういう意味での「責任」になるのではないかと考えておりますので、無責任なまちづくりはしない、皆で協働してやりましょう、ひとりひとりの判断によって動くということが全体のまちづくりにつながる訳ではありませんので、やはり「協働」は一緒に共に行うということが大事になりますので、言葉で言えば連携協力、だからそういう意味では、「責任」そのものが個人に問われるという概念は、この条例の中での議論としては少し馴染まないような気がしております。</p>
副部会長	はい、大体こう2巡目になりますが、委員さん、どうですか。
委員	<p>今言われました個々の「責任」という部分は、次の「都市内分権・地域自治」の方につながるような気もしていますが、個々の参加により自治会ができていて、自治体がそのどうやって自分たちの、大分市という中の自分たちの住んでいるまちの小さい区域に絞り、それらが大きな集まりとなることで、大分市としての住みよいまちづくりに発展していくと思いますけど、その時に、どう予算が下りてくるのか、また、どう予算を使うのかというのは、ある意味、その自治がこういう形で自分たちのまちをしていこうとした時にすることであって、それに関しての「責任」がそこに住んでいる個々に振られるのかというと、そうではないと思います。</p> <p>実際、まちづくりをしていくうえで計画を立て、これは良いからやろう、それで予算も下りた時にさあゴーとなった時に、思ったとおりに進まなかったということもあると思いますが、それでその「責任」を問われるような自治基本条例の形ではなくて、失敗もあるだろうけど、そういうものも含めて、皆が参加できるまちづくり、それで大分市を活気づけていこうというのが、この自治基本条例の姿だと思っていますので、責任うんぬんみたいなことを謳う必要もないです</p>

副部会長	<p>し、失敗したらどうだよということを謳う必要もない、ただ、機運を高めるような、皆が参加し易いようなものが姿ではないかと思いました。</p> <p>はい、多分ですね、どこの条例を見ましても自治基本条例の中には「市民の責務」というのは謳っていますので、ここでいう「責務」とその「責務」とは全然違うものと思っています。</p> <p>その辺は他の部会の部分になり、また、それは当然交通整理が要と思っていますので、そういう立場で議論をしていただければと思います。</p> <p>委員さん、もう一度どうでしょうか。</p>
委員	<p>団体の長としましては、やはり行政とつながることで「協働する」という言葉はどうしても使いますし、これからもそれは使う言葉だと思いますけれども、これがその団体をとおして私たちが市民の方たちとつながる中、色んな事業をしていくとなると、そこら辺はもう市民の方たちは「参加」ということで、だからワンクッション、私たち団体がクッション材になっているのかなと思っていました、その団体のやはりきちんとした「責任」といいですか、「協働」しながらということですから、お互いに対等な責任を持ちながら事業を行っていく、そういうことから行政と団体の間での「協働」が成立しないと上手く進まないかなと思います。</p> <p>ただし、今度、団体と市民の皆さんとの関係になると、やはり「参加」という形態で、何かこう私の立場が団体を持っているところですので、そういった形がこれからも必要なんでしょうし、その「協働」という言葉は行政と団体の間で使い、「連携協力」というのは市民と団体の間で使うとか、何か使い分けが要るのではと思いました。</p>
副部会長	<p>使い分け的な考え方ですね、はい、ありがとうございました。</p>
委員	<p>今までのお話をお伺いしまして、やはり「協働」本来の意味というのは凄く大切なんですけども、それに固執し過ぎると少し問題がややこしくなりますので、「協働」でも「参加」でも「連携協力」でもない、何かそれらを全部包括できるような言葉があれば良いと思います。</p> <p>ただ、この自治基本条例を作るうえで最適な言葉はというと、果たしてどれになるのかまだピンときてませんで、皆さんがそれぞれの言われていることを聞くと、ああそうだなあというように納得しますが、どれが相応しくどれが相応しくないといいですか、どれも相応しくないという言い方はおかしいかもしれませんが、どれもビシッとはいけなくて、全部利害がかかってくる問題、どれにしたいのかというのが正直今までの議論の中では、はっきりと自分的には整理できていない段階です。</p>
副部会長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>一応、始まってから１時間ぐらいたちましたが、今日は結論を出しませんので、要は、今、部会で作業しているのはその骨格、項目の部分を、一応事務局が案として提示しております項目に対しまして良いかどうかというひとつの流れを今</p>

	<p>確認しながら、流れといいましてその中身が少し議論されませんと、その流れが整理できないということもありまして、最終的には全体の部分、他の部会との調整、それから全体との意見調整というのが当然必要になってきますので、その辺のことをこう考えた時に、一応事務局が案として提示していただいている中では、「市政への住民参画」、それから「協働の推進」ということで分けて捉えて提示をしていただいておりますが、今の議論の中で考えていけば、「参加と協働」というようなひとつの大括りをしていくというのも、ひとつの方法ではないかと思っていますので、その中で、この部会としてこの項目についてはひとつ整理をしながら他の部会の意見を聞くとか、あるいは全体会の意見を聞くとか、そういう形でまた進めていったらどうでしょうか、といいますのは中身は今からですから、今からの議論が主になりますので、今、本当に入口の議論であり、ここで結論付ける必要もないだろうと思っていますので、そういう方向で部会長が居る時に相談しながら、そういう方向性に持っていくかどうか、という話をしてみたいと思っておりますが、そういう大括り的な考え方で、一応とりあえず今日はフリーストーキングという形にしておりますので、良いですか。</p>
各委員	はい。
副部会長	<p>それでは、次に都市内分権、一応事務局の方では「都市内分権・地域自治」となっておりまして、地域課題への取り組み、地域の自主性の確保、地域分権の手法などの提議をいただいておりますが、前回は議論しましたが、もう少し議論が必要だと思いますので、よろしくお願いします。</p>
委員	これはもう、自ら考え実行するということの部分ですね。
副部会長	<p>何といいますか、ちょうど連携といいますか、先ほど言いました「参加と協働」とも密にするという考え方でしょうか。</p> <p>どうでしょう、都市内分権について。</p> <p>今、幾つぐらいの自治基本条例があるという正確な数はつかんでおりませんが、その中の幾つかの市で都市内分権の考え方が整理されておったり、地域自治組織を作ったりとか、その条例で謳い込んだりとかいうのは幾つか例があるようでありますので、その中ですね、大分市の方向性というのがまだはっきりとしていませんので、要は、都市内分権を議論することは構わないんですけども、将来、近い将来ですね、大分市として地方分権の当然流れの中、自主自立の地方自治体、あるいは地方政府を目指していこうとするのであれば、当然、都市内分権というのは避けて通れないと思っていますけれども、その中での市長の考え方等がこの自治基本条例を作るということでもありますから、当然そういうものが頭の中に描かれているのではないかと思われるんですが、その法律に基づいた地域自治組織を作っていくのか、ゆるやかな、例えば隣の臼杵市なんですけど、全く法に関係なくそれぞれの地域で組織作りをし、独自の活動を行っているということで、今年の7月ぐらいからスタートして、今、ふたつぐらいの地域が手を挙げてですね、参加したいということがいわれてどんどん募っていこうということで、そこには大分市のような、何といいますか「地域コミュニティの再生」という形</p>

	<p>で事業費を少しずつ渡す形で始めたみたいです。</p> <p>要は、目指す方向が多分、都市内分権という形になればそういう方向だろうと思いますので、大分市の目指す方向というのを、皆さんでまた議論していただいて、当然、市民の皆さんの意見も聞く必要があると思っておりますけれども、最終的には目指す方向といえますのは、その法に基づいた組織を目指すのか、そうではなくて、ゆるやかな形で都市内分権を目指していくのか、今、大分市が進めています「地域コミュニティ再生事業」とかですね、こうした形で更に発展させていくのか、その辺の方向付けが、当然、最終局面では整理しないといけなと思っておりますので、その辺のところの考え方が少し分からないんですけど、事務局も当然分からないですよ、今、今の現時点での方向というのは。</p>
事務局	<p>はい、事務局としましては、今、支所単位で支所に予算をつけながら取り組んでおりますので、このところを充実させていくといえますか、そうした方向性になるのではないかと考えております。</p>
委員	<p>一応、支所を管轄しております部長としましては、基本的にはやはりそれぞれの地域の自主性、自立性を高めていく中で、いわば市域内分権にですね、耐えうるような受け皿作りを、仮にお金が入りてきた時にその市域内の発展、振興に企画運営ができるように、そのお金を回していくことのできるような受け皿作りが、今後、必要になるのではないかと、そういう方向性は考えております。</p> <p>ただ、そうなるにしてもその自治会の皆さん、それから市民活動団体の皆さん、NPOの皆さん、そういう方々を中心にした受け皿作りがどこまで進むのか、あるいは進めていけるのか、場合によっては、今の支所が中心となっているようなやり方をまず土台にしながら、民間の方々と一緒になった受け皿作りになっていくのではないかと、いように漠然として私も考えておりますけど、今、副部長さんがおっしゃいましたような、いわゆる自治法に基づく地域自治区というものは、今のところ念頭にはございませんし、市長の頭の中にはあるかもしれませんが、私も実際に担当している者として、そこまでの議論はまだしておりませんので、今のところそこまでは、例えばお隣の宮崎市さんのようなはっきりとした自治区を作る、地域自治区を作るというような考えは今のところ想定はしておりません。</p> <p>ただ、現実的な意味で進めていこうということになりますと、望ましい姿のひとつではあると思っておりますが、自治法が全てではございませんので、地域自体の、地域それぞれの、大分なら大分地域の考え方、特殊性があって然るべきだと思いますので、それが今の自治法に則ったやり方がベストなのかどうかというところは、まだまだ議論の余地があるかと思います。</p>
副部長	<p>はい、いずれにしてもこれは市長が作るという意味での自治基本条例ではなく、市民が作るものと考えた方が良くと思いますので、市民のそういう、やはり今後は市民意見交換会を多分していくでしょうから、その中でやはり声として出てくるのであれば、そういう方向を目指さないといけないのではと思っておりますので、要は、今のところまだ交通整理までいかないような状況である、ということとであります。</p>

委員	<p>今、委員さんの言われた中身を少し補足といいますか、正確な形で補足説明をさせていただきますと、ふたつほどありますが、地方自治法の第202条というのがありまして、この4に規定されていますけど、市町村の合併の特例によって作られる組織と、先ほど言いました地方自治法202条の4に規定されているものと、このふたつがあるということでありまして、ひとつは今言われているのが地域自治という地方自治法に則った地域自治組織の位置づけということになり、これを詳しくいいますと、地方自治法による地域自治区は、市町村長の権限に属する事務を分掌させ及び地域の住民の意見を反映させつつこれを処理させるため条例により設置され、というこれが202条の4の第1項でして、その市町村の全域に設置しなければならず、一部の地域のみ置くことはできない、ただし、総務省は同時に全地域に設置せず段階的に設置することは可能という見解を示しているということで、特別区や合併特例区とは異なり、法人格は有せずあくまでも市町村内の組織であり恒久的なものとされ、設置期間の定めは無い、とこうなっています。</p> <p>地域自治区には、事務所を置かれ、事務所の位置、名称、所管区域は条例により、事務所の長は市町村長の補助機関である職員、市町村長は、事務所の長に事務の一部を委任することができる、と規定されてまして、その運営として地域協議会というものが認められているということです。</p> <p>地域自治区には、地域協議会を置くこととされ、地域協議会の構成員は、市町村長によって自治区の区域内から選出される、ということになっていまして、地域協議会の構成員には、報酬を支給しないこととすることができる、ということになっております。</p> <p>地域協議会は、次の事項につき市町村長その他、市町村の機関から諮問を受け、また自ら審議して意見を述べる、というふうになっていまして、それは、地域自治区の事務所が所掌する事務に関する事項、市町村長が処理する地域自治区の区域にかかる事務に関する事項、市町村長の事務処理に当たっての地域自治区の区域内に住所を有する者との連携の強化に関する事項、こういうことが法に基づいて一応今のところその地方自治法で定義されているということでありまして、法に基づいた地域自治組織というのが作られる、ということなんです。</p> <p>これと、今言いましたように、任意でどういうものを作っていくかというのは、それぞれの自治体の考え方だと思いますから、都市内分権を議論するのであれば、このふたつをどういうふうにしていくかという議論は当然、していかなければならないと思っております。</p> <p>ひとつ質問しても良いですか。</p> <p>あまり良く分からないんですけど、今まで大分市全体のことを言っているんですけど、あの単位としてですね、私たちがこれからこう作っていく、単位としてのイメージをどこに持っていけば良いのか、自治区単位といいますか、校区単位にするのか、それか大分市を今みたいに4つに分けたような状態にするのか、何かそれが大体にはっきりしないと、その市民のまちづくり協議会の単位も決まらないのではと思います。</p> <p>最終的には、そういうまちづくり協議会ができるものと仮定して、そのまちづくり協議会のもと、どういう範囲のところに区域、行政単位区域を持っていくの</p>
----	--

	<p>か、それが無いと何か考える時に漠然と大分市全体のことを考えるのが良いのか、その自治区の軸を置きながら考えていく方が良いのか、そのところがですね、範囲、それかこれができるまで大分市全体を漠然とした、はまるような考えで、行政自治区、小さい地域のことはちょっと横に置いてものを考えていく方が良いのか、何か私の考えの中でうろうろしていて良く分かりませんので、決めて欲しいといいますが、自治区にするのか、その行政執行の単位をどうするのかというのは、それはまだ決められないですかね、今の段階では。</p>
委員	<p>今、まちづくりとして実際こう下りてきていますのは、委員さんがおっしゃいましたように、支所があるところは支所単位で進んでいまして、校区公民館があるところは校区公民館単位で、実際の団体等の代表者等を集めてどうまちづくりをしていくのかというのを、校区公民館があるところは校区公民館単位で進めていますので、校区公民館も支所も無いようなところは地区公民館単位で行っているということで、その地域に応じて支所が有るか無いかはまず前提で、有るところは何年も前から支所単位でのまちづくりを進め、支所が無いところは地区公民館が有ったり校区単位だったりしたのが、今度補助事業ではなく、実際にその支所単位と同じような予算を付けての活動ということで動いてきていますので、その大分市の中でも規模や地域毎にまとまり具合が全然違うと私は認識しています。</p> <p>だから、まちづくり活性事業みたいなものが満遍なく大分市内には立上げ事業としてありますけど、その規模ややり方とかは、その行政の単位がどこにあったのかによって違いがあり、そのことで地域毎に温度差が生まれているのが現状だというふうに捉えていますけど。</p>
委員	<p>現状、そのままこの条例の中に持ってきているのが正しいのか、これから作りますので、ある程度きちんとしながら基礎的なもの、ベースになるものだけは決めておいて、それからその地域の特色がでてくるのであって、今までは校区公民館でしたり、その自治公民館、中学校区とか色んなところで、色々なところから芽がでていますが、これを全部育て上げるのか、それともやはりこの機会に一律に基礎的なものは決めていって、後はそれぞれの自治区で、それぞれの地区で地域色豊かなまちづくりをしていけば良いのでは、というような考え方でののがですね、その辺りが少し今、一生懸命こうまちづくりを、例えば明野みたいにかちんと行っているところもありますけど、これから頑張ろうというところは普通の一般的な小学校区になって、小学校が少なくなって中学校校区になって、それから今、センターがあちこちにできていますが、そういうところにするのかですね、やはりこの条例を作る時に決めておいた方が、落ちこぼれではありませんけど、見落としがなくて良いんのではと思いましたけど。</p>
委員	<p>あの、地域づくりの現状につきましては、今、私に代わって説明していただいたようなものでして、それぞれの支所単位に地域づくり、地域活性化に取り組んでおりまして、中央地区だけが少しそういった区分がはっきりしておりませんでしたので、今は、本来は校区を中心にやりたいんですが、校区中心の中で・・・</p>

委員	すみません、中学校区ですか、小学校区ですか。
委員	<p>小学校区なんですけど、それぞれの地域で取り組んでいただいて、多分一番活動が活発なのは校区単位だと思いますが、校区単位で例えば校区公民館を中心とした活動、学校を中心とした活動、そういう活動が多くてですね、今、市民協働の方では、大分地区につきましてはそれぞれの地区公民館単位で事業を作っていくと、ただ、それぞれの地区公民館単位の中でも校区単位でやりたいというところが幾つもありますので、それは校区単位でお願いするような形での地域という概念で取り組んでおります。</p> <p>ただし、この条例の中ではそこまで謳う必要は当然ないでしょうし、あくまでその地域の主権を活かしたような形、地域が主体になったまちづくりを、大分市全体としてどういう方向で進めていくのか、その地方に自立した権限等を持っていただいて、自治を進めていただくために、確立していただくためには、どういう方向で市民も了解しました行政もやります、というような形を盛込むかだと思っておりますので、具体的にどの校区とどの校区がというような謳い込みは必要ないのではと思っております。</p>
副部会長	<p>私の方から言って悪いんですが、議会で市民意見交換会を開いた時に、例えば大在の時にこういう意見がでたんですけど、昭和38年に合併して新市が発足して新産都を誘致していったという経過があるが、それから旧態依然として今の行政区は変わっていない、だからこのままで良いのかどうなのかその見直しをする時期がきているのでは、という意見がありましたし、明野に行きますと、今度は明野出張所は何で支所にならないのか、という話もありまして、この中心部を見ますと今言ったように旧市内、エリアが非常に広くて公民館だけでも中央、南大分、グリーンカルチャー、南部も一部入りますが、少しくエリアが広いということがありまして、先ほど委員さんが言いましたように、昔の合併したところの部分については支所があり、この中心部の場合はかなり広範囲にエリアがありましてこの辺をどうするのか、ということで非常に苦慮していることも今聞いたとおりだと思います。</p> <p>ですから、いずれにしても都市内分権であれば、大括りではなくてやはり細かな活動がその地域でし易いものを目指していく、というのが都市内分権だと思っておりますので、そういう意味での考え方ということになりますと、もう少しきめ細かなといいますが、その地域でのまちづくりをする拠点といいますが、そういうものがやはり必要になるのではないかと思います。</p> <p>それと、今、地域を代表する組織といえば自治会組織となり、自治会組織も地域によっては自治委員さんも非常に高齢化されているし、確かにその時代とともに地域の自治会組織がする仕事というのは、自分たちの年間行事、地域の事業、それから市からくる色んなその市報の配布にしる何にしる、また、結局それに関わらず行政全体の部分はやはり自治会にお願いしないといけない部分が非常に多いということもありまして、正直言ってもう今、私はいつも言っておりますけど、自治会組織というのはもうオーバーフローみたいな形になってしまって、これ以上自治会組織にあれもこれもお願いしますということは無理ではないかということで、そこで自治委員さんに聞いてみますと、もうこれ以上のことを我々</p>

委員	<p>に言われてもしょうがない、だからこれ以上荷を掛けるのであれば何か別のこういうものを考えて欲しい、というようなことを良く言われます。</p> <p>そういう中で、本当に地域がやはり活性化するためには、そうしたひとつの専門部署的な人たちが継続的に取り組むということだろうというふうに、自治委員さんも短いところであれば任期２年ですから、２年で交代するところもありますし、長いところは１０年以上やっているところもありまして、長い短いの弊害も色々あるみたいですので、なかなか上手くいっていないということを良く聞いておりますので、やはりまちづくりというのは継続性だと思いますので、２年やあるいは４年で交代してもなかなか継続性がないということが良く言われておりますので、そういう意味で今の組織に頼っていくというのは、非常に無理があるのではないかと思いますので、都市内分権という方向付けがあるのであれば、そうした新たな組織を目指していくということも、私個人としては必要ではないかと思っております。</p> <p>それで、たまたま先週臼杵市の方に少し電話で問合せをしたんですが、そういうことを今年の７月から取り組みをしているということで、実際には行っていないので少し分かりませんが、近い内に１回行ってみたいと思っております、ふたつの地域から手が挙がっているということで、今募集をしているところみたいですので、そこに補助金をだしてその地域が何をしようとしているのか、その辺のことも含めまして少し聞いてみたいと思っております。</p> <p>逆に現状と課題といいますか、この辺のところは、それは地域毎に取り組みのスタンスが、とにかく凄いい想いというのがありまして、今ほんの一部の僕は意見だと思っております、現状は。</p> <p>そういう実態は全然だしてないので良く分かりませんが、例えばひとつの自治区である公民館行事があっても役員しかいない、会場は３００席あるけど、１５人しかきていないような、これはもう他の行事は駄目かということそれは違って、また、他の別な部分は何か沢山人が参加していたりとか、企画の違いがあるかもしれないませんがそれは置いて、役員の人たちは全部でできている訳で、だけど感動が無いですよ、そうしますと一生懸命するけど結局そのモチベーションが上がリませんから、とにかく仕事をこなすだけになってしまうという側面があったり、また、こういう機会に色んな機能をもう一度整備しても、今度はその地域の中でももっと、要するに土着の部分がありまして、それがこうなかなかひとつに交わるということができなくて、一方は高齢化が進みとにかく中央に集まれないうからもっと細分化してくれと、聞けばとにかくもう１日、１年かかってでも収拾がつかないような現状の中、まあそういう現状が奥にある、皆さんに言わしたらもっとある、そうするとどこにスタンスを置いてしていくかという、これを本当に考えていかないと、それらを全部まとめてしていくことは多分不可能だと思っておりますので、あんまり縛りを大きくしないとか、今の現状を良く見ながら多少の手直し、見直しができるぐらいの要素でステップアップしていくというような感じの方が、やはり一番ベターのような気がしています。</p> <p>大上段で構えてこの理想とする形でいこうとすると、破綻してしまうことになるのではと危惧しておりますので、とにかく今言っているのがほんの一部の意見であるということだけを認識して、もう少し現状と課題をしっかりとやるべきだ</p>
----	--

<p>副部会長</p>	<p>と思っておりますので、そのことを頭に入れて考えるのが望ましいと思います。</p> <p>私も毎月１回、明野地区の自治会連合会の定例会が開催されますので、必ずできるようにしておりますけども、そこでの議論の中を見えますと、殆ど行事の消化の議論であって、その地域の課題とか取組みとかいうものについて議論する場では全くない訳でありまして、そうすると、その当自治会が抱えている課題だとかを議論する場が全く無いんです、それを持ち寄るところが。</p> <p>だから、例えば鶴崎地区はその部分がかかなり進んでおりまして、年に１回、行政に対する、県と市に対する陳情を鶴崎地区全体で行っておりますので、そういう意味では課題を持ち寄るといことで、地域によってはそういうところもありますし、明野みたいに結局、こんなことを言うと怒られますけど、殆どその議論が行事消化のための定例会でその地域地域の課題を持ち寄って、今年はどういうふうにしようとかいうものは全く無いといことで、そういう中で本当にまちづくりができるかといえ、やはり難しいのではと思っているのが実態です。</p> <p>やはり今求められておりますのは、先ほど委員さんが言われた高齢化が進んでいっているということと、もう少子化ということと、その地域の連携、その希薄化、隣近所のそうした人間関係も含めまして、もう本当に待ったなしの状況がもうそこまできていますと、なのに何も手をつけないで良いのかということには多分ならないだろうと思っておりますので、そのために早くこうした条例を整備しながらひとつの方向付けを見出していった方が、非常に良いのではないかと考えております。</p> <p>そういう意味では緊急を要するひとつの課題であると思っておりますし、今議会では子どもに関する条例の制定を目指しておりますけれども、２年間掛けて地域の皆さん、あるいは団体の皆さん、色んなことを聞きながらその少子化ということは、これは子どもたちは社会の財産ですから、この子どもがやはり色んな意味でその今危機に瀕していることは間違いないといことで、緊急を要する課題であるといことで、そうしたことの取組みを進めておりますし、子どもに限らずですね、今、地域は非常に疲弊している、周辺部に行くところまではないんですけど、やはり中心部にくればくるほど地域はもう隣近所を含めて希薄化している、あの挨拶しても「おはようございます」の「おはよう」が返ってきませんから今、私なんか本当にびっくりでして、地域に住んでいて挨拶しても返ってこない、殆ど８割、９割ぐらい返ってこない、こういうのが今の地域の実態です。</p> <p>だから、声を掛け合わない、もう隣のことは知らない、もうそれが今の地域ですから、これを再生していくということは非常に困難だと思いますけれども、それをしめませんと今言いましたように地域での子育てとか高齢者対策だとか地域福祉だということは、絶対に無理だと思っており、そういうことは早く何とか手を掛けていかなければならないとも思っておりますので、そういう意味からも、是非ともこの「都市内分権・地域自治」が重要だと思っております。</p>
<p>委員</p>	<p>ひとつよろしいですか。</p>
<p>副部会長</p>	<p>はい、どうぞ。</p>

委員	<p>2年、3年ぐらい前に鹿児島県の限界集落に少し焦点を当てて、環境教育の視点からその限界集落のことを色々と探ったことがあるんですけども、その時に、もしかしたらご存知かもしれませんが、鹿児島県の鹿屋市に柳谷という地域がありまして、そこも限界集落で戸数が少なくとても大変な高齢化だったんですけど、ひとりの人がそのキーパーソンになりまして、その集落の地域力といえますか、集落力といえますか、そういったものを高めるために事業を始めたんです、その集落の中で集落の経営をする、その色々な事業をやる中で、それも皆地域の人たち全員が関わってやるということで、結果的にはひとつの家に1万円ずつボーナスを配ったという、集落経営が成功してですね、そうしたのを見てきたんですけども、それを例えば私たちが住んでいる地域に、人を当てにしたらいけないんですけど、どなたかキーパーソンがいてですね、何かその健康なまちづくりとか地域おこしになるんでしょうけれども、そういった核ができて幾つもの、あの大分市内にそういった核が沢山できてきて、自主的にそういったことが進んでいくようになれば、それぞれの地域の特色のあることが、この都市内分権につながってくるのではという気持ちが今フツとしたものですから、少し話をさせていただきました。</p> <p>そうした地域から湧き上がるものがあると良いかなと、それがやはり一番理想ではないかと、今お話を聞いていて感じました。</p>
副部長	<p>条文の形を作ってから地域で意見交換会を行えば、多分市民の皆さんはかなり反応すると思います。</p>
委員	<p>そのような気がしますね。</p>
委員	<p>人間は逆境に立たされた時に一番星が見えるんですよ、要はそうでしょう。</p> <p>だから、先ほど言いましたように必要性を求めてないのであれば、行政だけでしたら良いという、いうならば役員さんの自己満足で終わるという、本来、やはり地域はもっと皆さん方が望んでいることって何ですか、地域にはお年寄りが居まして家から一步もでませんという、本当にだけどそこで傍だったら行くのと聞いたら、何もすることないから行くよという話であれば、場所を移すとかの工夫だとか、それを一步推し進めていくリーダーがやはりいないということと、それをサポートするだけの、こういう機能が無いということだと思っていますので、だから、想いは十分、本当にもう俺たちどうするんだというところの意地だと。</p>
委員	<p>そうなった時に、初めて皆で何とかしないと、という気持ちになって、ここの地域はそうなったんだと思いますけど、だから、そこまではないんですね大分市は、その豊かな中でそうしたことをやろうとするのはとても何か、やりくりが必要だと思います。</p>
委員	<p>だから、多くを望んでもなかなか難しいと思っていまして、ただ、そういうシステムがあればそれを使える、それを活かしてあげるということで、この条例を使いたいということで良いと思います。</p>

委員	副部会長さんが先ほど言われました、臼杵市の例とつながりますか。
副部会長	臼杵市の場合は、まだはっきりと分かりませんが、そういうふうに動いていることは確かです、何とかしないといけないということで。
委員	<p>前回、高田地区で植樹祭がありまして、僕も8本ほど植えましたけど、3,000人も参加者が居て、自治会長さんとお話をして聞きましたけど、やはりあそこの地域は水害の地ということで、先祖代々、要するにその気持ちの中に伝承といいますが、長い長い爺ちゃん婆ちゃんの時代から染み渡って、周りもそういうことを意識しているから、あの地域は災害だとか水に対する部分がひとつのきちんとしたベースになっている、想いのベースに、だから、こう損得ではないですけど、こうコンコンとしたら皆が「それは良いことだ」ということで、あのかなり大きな事業が完成したと僕は思っています。</p> <p>ただ、ある地域に行くとうちは関係無いみたいな部分で、校区の中に構成されている部分がありますと、もうこちらで言ったってこれは全然ありますよね、そうするとここに適用するだけの何かをひとつ、ここに提供するものってこうやらざるを得ないというような現状がやっぱりありますので、そんなことを自治会長さんとお話をしました、最近の話なんでお伝えしますが、そういうのが根底にあるということだと思います。</p>
委員	やはりニーズとしては、迫ったものがないと、なかなか人は動きませんので。
委員	そうですね、そうしたことを想定して考えると、もっとこう何かイメージが湧いて乗っていきそうな感じがしますので、やはり現状と課題というのは大事なので、全部現状を良く見て聞いてやると少しイメージが、これをそういうふうにさせるための条例はどう作ったら良いのかという、僕らもこうイメージとしてはこうできてるんだけど、机上だけではなかなかできないというのが実態でしょうか。
副部会長	はい、一応11時が近づいてきましたが、何か他に皆さんの方で、今の関係でどうですか。
委員	よろしいですか。
副部会長	はい、どうぞ。
委員	今、限界集落のことをおっしゃられましたけど、確か高田の地域は、先日少し輪中を見に行きましたが、石垣とか先祖代々作ってまして、やはりそういうものを作る必要性が絶対にあるということで、限界集落、大分の場合の限界集落は、一番僕が描く厄介なものは団地が多いことだと思っていまして、団地にはそれぞれショッピングセンターとか、とりあえず買い物をするところがありますけども、果たして高齢に達した時に、車の運転ができなくなる、歩けなくなる、そう

	<p>なった時に、あと１０年したらそうならざるを得ないのではと思いますので、これが農家の人たちだと、限界集落であっても先祖代々守っているものがありますから、ここを守らないといけない、というモチベーションがありますので動かざるを得ないと思っています。</p> <p>先ほどの鹿児島県の事例は、私は良く分からないんですけども、例えば徳島県の葉っぱを売っているところ、確かそこは年収１，０００万あたりとか、あと私は大学が高知県でして、高知県の四万十川沿いのところにも限界集落がありますけれども、そこは何か地域活性化事業で非常に栄えているところがありますけれど、逆に四万十川と反対側の方は凄く斜面のところには家がなくて、昔の落人のところのようで閑散としていまして、場所によっては差が凄く激しいので、その差をどう詰めていくのかということが大事だと思います。</p> <p>大分市の特殊事例、その団地の限界集落というのはこれからどうなるのだろうかと思っていて、それで、私は明野ですけど、先ほどおっしゃられたように、その行事を消化していただくだけではなく、やはり何か課題を持ってどうかしないとけないというのをやはり皆に持たせ、このままでは危ないというような、何か働きかけをしていく必要が絶対あると思います。</p> <p>今のところは大丈夫なんだろうけど、１０年、２０年したら本当に大分市どうなっているんだろう、というのを率直に思っています。</p>
副部会長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>一応、そろそろ時間になりましたので、よろしいですか「都市内分権・地域自治」、まあ今日はフリートキングということですので、これからまた議論を深めていければ良いと思います。</p> <p>次回は、部会長にも出席いただく中、今までのご意見を総合的に判断していただいて、皆さんでまた練り上げていきたいと思っています。</p> <p>一応、今日はこれで終わりますが、その他で次の開催日程を、部会長はおりませんが決めたいと思います。</p> <p>あと、事務局に確認しますが、他の部会との関係があるかもしれませんが、この部会としては、今までの骨格の整理だけでも何時頃までに、今年中ですか、それとも来年明けでも良いですか。</p>
事務局	<p>年明けでも結構です。</p>
副部会長	<p>皆さん、１月に入ってからのでよろしいですか。</p>
各委員	<p>はい。</p>
副部会長	<p>では、第１希望は１３日の火曜日の９時３０分から、予備日は１４日、１５日のということでよろしいですか。</p>
各委員	<p>はい。</p>
事務局	<p>それでは、部会長の日程を確認し、会議室を確保いたしまして、後日正式に文</p>

副部会長	<p>書にてご案内させていただきます。</p> <p>はい、本当に今日は部会長が居ない中、私のつたない司会で申し訳ありませんでしたが、次回も皆さんよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、本日は以上で終了いたします。ありがとうございました。</p>
------	---